

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 企救 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

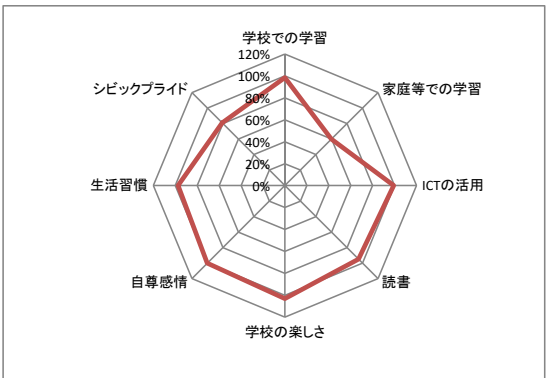
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	情報の扱い方に関する事項、書くことに関する事項、話すことに関する事項に課題があり、「具体と抽象」や「根拠を明確にして」書いたり読んだりする問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	言語の特徴や使い方に関する事項（事象や行為、心情を表す語句について理解している。）	
	努力が必要な問題	情報の扱い方に関する事項、書くことに関する事項、話すことに関する事項	
数学	全体的な傾向や特徴など	各領域の最初の問題については、他の問題に比べると正答率が良いから、基本的な知識は身につけてきている。しかし、その知識を活用してほかの問題への活用することは、まだ改題が多い。また、自分の考えを記述や証明で表すような自己表現についても課題が多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	関数やデータの活用の問題	
	努力が必要な問題	図形の証明や事柄が成り立つ理由等を説明する問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	書くことについては、日頃から苦手意識が強くある。時制を意識しながら、また文法のミスを最小限に抑えて英文を書く必要がある。英文を読み取る際、意味を理解するだけでなく、知識も求められるとともに、自分の考えを伝えることも今後の課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	書くことに関しては、情報を正確に聞き取ることができている問題がある。読むことについては、日常的な短文を読み取ることができている。	
	努力が必要な問題	社会的な話題については、要点をしっかりと捉えることが課題である。また、英文を理解するだけでなく、社会的な知識も身に着けることが課題である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・「学校での学習」に関する質問は8項目のうち、多くの項目で全国平均と同等かそれ以上の肯定的な回答が占めていた。しかし、「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」については下回る結果となった。今後は総合的な学習の時間の一層の充実を図る必要がある。 ・家庭学習に関する質問は3項目のうち、2項目が全国平均に比べて下回る結果となった。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や、様々な教科での学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語・数学・英語の教科において、全国および本市の平均よりも本校平均が下回っていた。生徒がさらに理解度が深まるような授業づくりに取り組んでいく必要がある。具体的には、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を授業の両輪とし、一人ひとりに適した学習を実現していきたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「家庭等での学習」と「シビックプライド」が全国平均よりも大きく下回っている。このことから、GIGA端末を使った効果的な家庭学習のコンテンツの導入を検討したり、地域で開催される催しの情報提供を積極的に行ったりしたい。